

事業名	小鳴門海峡周辺の海況予測システムの開発
予算区分	計画調査費（経営推進課）
事業実施期間	令和6年度～令和8年度
担当者	（環境増養殖担当）池脇義弘、井口 悠稀
共同研究機関等	
<p><目的></p> <p>小鳴門海峡は、播磨灘と紀伊水道という2つの灘（以下、両灘という）に挟まれた細長い海峡で、両灘につながる海峡両端の潮汐の位相が大きく異なることから潮流が速く、この海況特性を生かして、その周辺海域とともにワカメ養殖が盛んである。近年、養殖ワカメは、海水温上昇による生長不良や栄養塩不足による色落ち被害が頻発している。一方、小鳴門海峡の中央付近に位置する水研鳴門庁舎では、地先の海水温・塩分及び栄養塩濃度をリアルタイムでインターネット配信している。水研が観測している小鳴門海峡周辺の水温情報を拡充し、前述の海況特性を生かして海水温の予測や予報を行うことで漁業者がより有効に活用できる形で配信し、漁業生産力の向上を目指す。</p> <p><方法></p> <p>小鳴門海峡周辺海域の水温観測地点を増設する。そして、各地点の観測値を比較し、潮汐や気温変動などが、水温変動にどのような影響を与えているか分析する。</p> <p><結果></p> <p>小鳴門海峡における既存の観測地点（海峡中央付近に位置する水研鳴門庁舎地先、「小鳴門中央」）に加えて、2024年11月に播磨灘側に近い「北泊」、紀伊水道側に近い「土佐泊」に水温観測ブイを設置し、1時間毎に水温を観測した（図1）。また、2024年12月には、鳴門海峡の南「八木の鼻」にも水温観測ブイを設置した（図1）。</p> <p>図2に2024年11月の各観測地点の水温と気温（徳島のアメダス観測値）の変化を示した。各地点の観測水温には、両灘の潮汐の位相差に起因する水温の周期的な変動が観測されたほか、気温の変動の影響と思われる変動も見られた</p> <p><次年度の計画></p> <p>水温観測値と気象予報データを用いて、小鳴門海峡周辺の水温予測を試みる。</p> <p><結果の発表・活用状況等></p> <p>徳島県リアルタイム水質情報配信システム（https://tokusuiken.pref.tokushima.lg.jp/）上で、水温観測値を公表している。</p>	

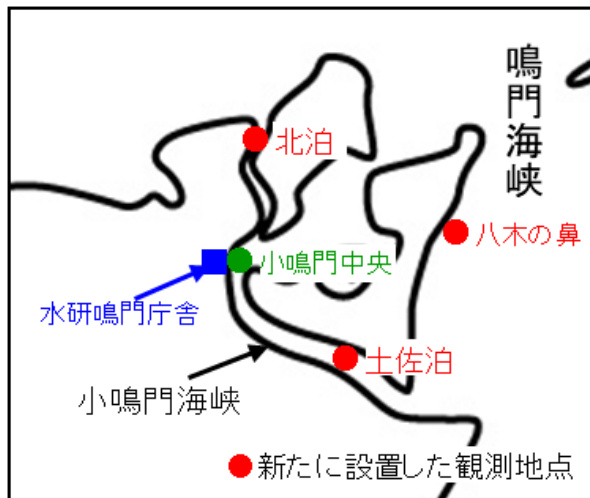


図 1. 小鳴門海峡周辺の観測地点図

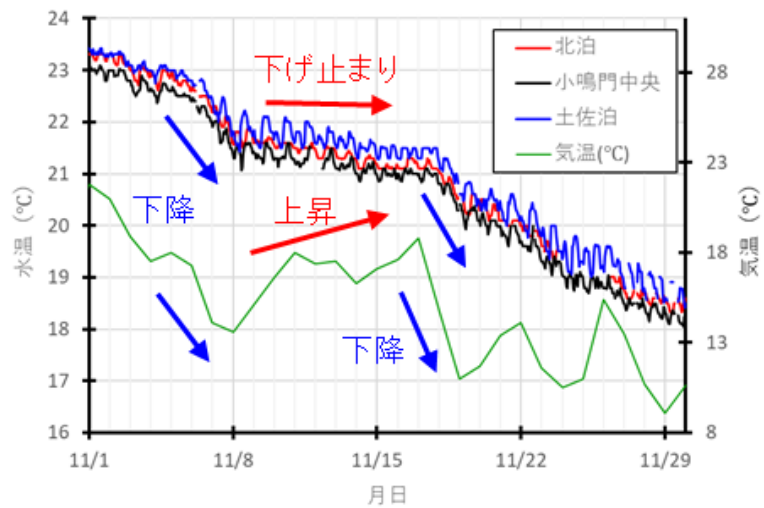


図 2. 2024 年 11 月の各観測地点の水温と気温（徳島のアメダス観測値）の変化